夕刊
磐城新聞
十二月九日發行
定價一ヶ月（郵税共）
發行所 磐城新聞合資會社
（日曜祭日翌日休刊）
振替東京一〇八五五六番

夜襲（下）

愚鱈生

一番厄介なのが、唐黍であつた。靜かに折取つた毬りなのが、ボキッと音がする。その音が野面に廣がつて、誰か聞いてやしないかと、氣が氣ではない。だから上衣を脱いで蔽つてからねぢる樣にして折る工夫を考へついた

一番面白いのは、柿泥棒であつた。張り番をつけて猿の樣に木登りの巧いのが登つて、手當り次第、もいでは懷に入れるが、慾張つてゐるので、何時の間にかいつぱいになつて、落す。一つ落すと續け樣に落す。落したのは這いまはつて探す

柿だと思つて握つて見ると築つばであつたり、熱柿をつぶして冷つとしたり、大丈夫と思つた枝が大さな音を立てゝ折れたりする。何しろ眞闇の中を探して取るのだから、並大抵の苦勞ではないが、柿盗賊には柿盗賊としての感が出來ると見えて、三十分も暗闇劇を續けて居ると大抵四、五十の柿は入手出來た獲物を握つて引上げる時の朗かさは亦格別である。口には甘い秋の味を一杯に頰張つて、クス／＼笑ひをしながら、塀の處まで迎へに來てる學友に獲物を渡す。萬一、舍監に捕まつても、何も持つてない事を證明する爲に帶を解き、懷中を淨めて再び校庭に忍び込む。斯て半分眠つてゐる寮友に、獲物を一個宛進呈すると、暗い寢臺の彼方此方から、ボクッ／＼と、寢ながら貪り食つてる音がする。蜜柑は熟したのは一種の光澤があり、それに香氣が強いので、探すのに手間取らなかつた樣であつた

翌朝六時、起床ラッパで點呼がある。昨夜の勇士はまだ泥だらけの手で、眼をこすり／＼段梯子を降りて來る。皆が『ワアッ』と笑ふと、舍監先生、自分の顏に、墨でもついて居るかと思つたものか『ヨシ、洗面後直ちに自修』と命令した

今日の訓へ

哲名山人

東洋學は唯心的に西洋學は唯物的に發達した傾向がある。故に唯心的のものは將來主義に唯物的の者は現實主義に流れ易いものである、然しながら我々東洋人は知識の傳統として主として唯心的であり、從として唯物的であることが肝要である。是れヒユマニズムに於ても東洋文化は全体主義であり、西洋文化は個人主義であると謂はれてゐる

雪のたそがれ

高田琢朗

寒い北風吹く夕
雪もバラ／＼降る夕
見知らぬ子供は泣いてます
誰もかもつて呉ませむ
空は灰色低い空
髪は長いし頭巾はないし
丸くふとりしほゝからは
つぶら涙はこぼれます
小さなお手々は冷たそう
頭も肩も雪が降る
北風強く吟くたびに
泣き／＼子供がふるえます
足袋もはかずに冷たかろう
ベタ／＼雪の泥の道
泥にまみれた藁草履
ベタ／＼雪の降る夕
見知らぬ子供は泣いてます
誰もかもつて呉ません
あの子は孤兒の旅の子か
一人スク／＼泣いてます

一女にあたふ

佐藤章路

○物言はぬ樂しさにゐてひたよれる心二つは相戀にけり
○冷えつのる床にしば／＼目覺めては思ひに耐わね泪流しぬ

清野静子

○あかときのみ社前に赤々と納松やく火のもえさかれるも
○ほろ／＼と赤きつぶら實こぼれけり活けてを久し床の南天
○白く／＼雪降り積みし小庭べにたわゝに赤し南天の實は

新年短歌俳句募集

一、題　イ、新年雜詠　ロ、牛に因めるもの
　數隨意、但し歌俳を別紙に認むること
一、締切　十二月十五日

納豆禮讃
チフスと營養學

荒井生

一

今から一昔前ドイツ國内での出來事である。一有力なる醫者がコレラ菌を發見し、當時原因不明であつたコレラ病の大體は自己の發見にかゝるコレラ菌であるといふ學説を發表した。正に衛生學史上特筆さるべき大發見である。所が一方にこの學説に反對する學者があり、コレラ病はコレラ菌の作用などによるものでないと主張し自ら實驗臺になつてそれを證明しやうと云ふので。無謀にも多くの醫學者及公衆の面前で新に發見されたコレラ菌の培養基を飲み込んで見せた。その效果はどうであつたか。勿論彼れは恐るべきコレラ病のために貴き一命を失つたかと云ふにさに非ずで、ごく輕微な下痢をしただけであつた。然らば新に發見されたコレラ菌は眞正のコレラ菌でなかつたのであらうか。否、その培養基は間違ひなく本當のコレラ菌であつたのである。しかし彼の強健な身體は純粹な培養されたコレラ菌をもノックアツトしてしまつたのであつた。彼がコレラ菌を吞込んだ時傍らに居た彼の助手も一緒にコレラ菌を吞込んだがこの方は忽ち本當のコレラに罹つた。原因を探究してみると此の助手は前日ビールを飲過ぎて胃腸を害して居りそのためにコレラ菌の毒力に壓倒され發病したものと判明した。この事件は『病源菌の感染必ずしも發病を來さず』と云ふ一つの證明ともなり、當時有力化されんとして來た病氣の原因はすべて病源菌によると云ふ説に對する一つの警告ともなつたのである

……△——△

冬晴出游（其ノ一）

珠雲　小野務平

丹楓幾處臍淸奸
乘齊來過野水邊
釣客兩三間可羨
傍觀小立夕陽天

12月10日

△島原亂幕府軍原城を包圍（寛永一四）△歌人蓮月尼歿す（明治八）△我國初の高架鐵道敷設願（同三九）△七五三宮詣り賑ふ（昭和一〇）

小説　高橋是清

（187）松浦泉三郎作　佐々木今朝吉畫

鎮靜まで（四）

至誠奉公の一念に燃えて假令議場で斃るゝまでもと病苦を押しての是清の熱意振りは[illegible]ら院内へ風のやうに傳はり、與黨と野黨とを問はず貴衆兩院の全議員は大きな感動を受け粛然襟を正した事は云ふまでもなかつた

その熱意の前に野黨の鋭鋒鈍つてか、政府提出の三法案

一、日本銀行特別融通及損失補償法案
一、臺灣の金融機關に對する資金融通に關する法律案
一、昭和二年勅令第九十六號承諾を求むる件（モラトリアム事後承諾案）

——は、同日午後一時からの委員會で大多數で可決され、同日夜の貴族院に於ても、十時廿五分に至り遂に滿場一致、唯一人の異議を挾む者もなく可決確定されたのであつた

即ち會期僅か五日、危ぶまれた會期延長もなく、財界救濟案は全部、然も兩院を通じて殆ど原案の修正なしに通過して、臨時議會は幕を下したのであるが、世人は、かうした事は正に前代未聞の事として是清に對する賞讃の聲を惜しまなかつた

田中首相は雀躍した。そして三法案の兩院通過と共に、左の聲明書を發表した

『政府が財界安定のために提出したる各種法案が上下兩院において無事豫定の期間内に協贊を經たる事は、誠に國家のため大慶に堪へませぬ。その結果必ずや我が財界は安定し、一般經濟界も亦好影響を受くる事と固く信じます。國庫の七億の補償は輕からざる負擔の如く考へられるが、この好影響を受くるに至つたならば事實上の國庫の負擔は意外に少くなるかも知れません。私はこれを希望し且これを信ずるものであります。預金の口數は二千四百萬にも上つてゐることですから、その救濟は全國一般的のものであることは疑ひなく、又經濟界の安定とその發達とは、預金の有無に拘はらず全國民に生活の安定をもたらすことと思ふのであります』——

そして政府は直に全法案に關し、上奏御裁可の手續きをとり、翌五月九日官報號外を以て公布し即日施行したのである

晴々とした全閣僚の笑顏が、田中首相と立役者是清を中心にして貴族院玄關前に並んだ寫眞が有らゆる新聞紙の政治欄に飾られた

その朝——

疲れ切つた老軀を、自邸の庭先に運ばせた、安樂椅子にゆつたりともたせて是清は雨後の明月を仰ぐやうな氣持で倦かず若葉の匂ひにひたつてゐた

早朝から老軀を案じて見舞ひに來た上塚秘書が暫らく椅子を並べて閑談の後、言ひ憎さうに知人から依賴さ[illegible]た白扇に是清の書を望んだ

是清は然し機嫌よく家人の運んで來た筆を手にして考へもせずに無造作に書いた

不恐　不怒
不侮　不焦

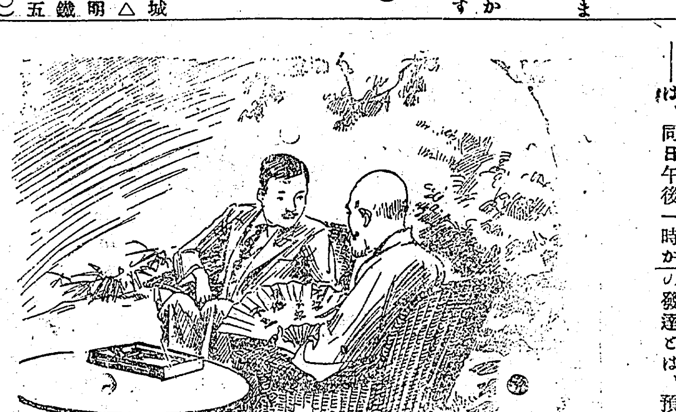
扇面にはこの八字が雄渾な筆勢で並んでゐた

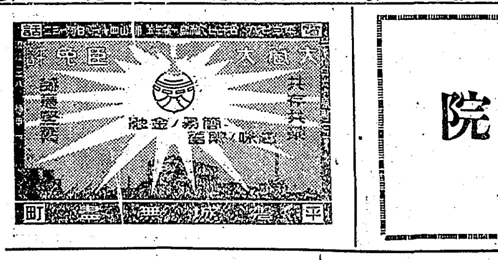
『昔の武士の戒律の一つぢや。同時にこれは古今に變らぬ敎訓ぢやと、吾輩は常に思つとる。是清の日常愛誦し日常學んでゐるところぢやと、これを望んだ者に傳へて欲しい喃』

是清が微笑して言つた

（不恐、不怒、不侮、不焦——）

確かにこれは人生の最も大きな敎訓の一つだ。流石に上塚秘書は感激して押戴くと改めて是清の横顏を今更のやうに泌々と見詰めてゐた





各科專門醫擔當
磐城共濟病院
院長 醫學博士 長谷部喜久
平町・電話六四一番

酒とマヅイ
おでんの榮ちゃん
平田町花ノ里
電話三三三番

廣告

料理部新築
五週年記念サービス
料理部新築五週年記念として忘年會、新年會を特に勉強致します、何卒御利用願ひます。
忘年會　新年會
會費　金一圓五十錢より（御料理、御酒、藝妓共）
料理人、女中、番頭多數揃へて御客様にサービス致します。
平町　住吉屋本店　電話一五九番

マツダランプ
マツダ眞空管
年末サービス
期間　十二月一日　十二月三十一日
右期間内特價値段ノ外粗景ヲ差上ゲマス。
平町二丁目　日東商會　電話四二八番

外科、内臓外科
エツキス光線科
新設　産婦人科
院長 安齋徹
醫學士 黒澤廣
入院隨意
平町田町　安齋醫院　電話四七五番

決算期和洋帳簿傳票
數百種
當用日記ポケツト日記
無慮百二十種
新年エハガキ、文字ハガキ
カルタ、トランプ、アルバム類
パイロット萬年筆
贈答用美麗函付
マルトモ柴田書店
平町四丁目　電話234・124番

平町田町
高久病院（電話五三二番）
内科　外科　小兒科　耳鼻咽喉科　花柳病科　レントゲン科
醫學士 高久忠
新潟醫學士 赤羽清
藥劑士 佐竹菊雄

自轉車・リヤカー
品質本位と正直な値段
フタバ商會
平・新川町郵便局前 谷屋呉服店トナリ

貸切自動車
高級流線型
時代の要求!!
時代の寵兒!!!
皆様の足
迅速　親切　叮嚀
◎お玄關から　お玄關への……
◎豆タクを是非御利用下さい
…賃金低廉普通料金の四割引…
㊍平和タクシー
豆タク部
植田台町
電話六十四番

日本一ニツポン。魚は活魚
日本一 特約 平製氷會社
ヒノマル鮮魚
鯛　ヒ　白魚　ワカサギ
銀鯛　甘鯛　甲イカ　鰹
北寄貝　帆立貝　目拔切身　うに貝燒
平町四丁目　魚問屋　電話二八番
配達ハ一尾一箱ヨリ迅速ニ致マス。

入院隨意（自炊の便あり）
外科專門
X光線科
平南町
病室完備
上田醫院
（電話一二九）

相當の彈力がある！宴會から觀た暮景氣

愈よ展開されるボーナス氾濫　師走も既に三分の一經過

明暗交錯

師走も愈よ十日となつては師季氣分が漸次本格になつて來て借金拂ひの苦勞話し、ボーナス、忘年會と歳末にのみ見る明暗夫々の錯綜した雰圍氣を渦卷かせて居る。此際陰慘な話は拔きにして先づ朗かな視角から之の暮れを眺めると、景氣の奔躍に惠まれてる炭礦方面を筆頭に何十萬と云ふ大金が流れ出すので、之のボーナス氾濫の煽りを食ふ町の商店、料理屋などは相當潤らされるものがあるものと豫想される、手近な處各方面の宴會景氣を概觀すると

去る五日谷口の栃木縣人會を皮切りに、六日には小瀧鑛泉で磐炭會計係一行、明十日石川亭で町村長懇親宴と、谷口の貯蓄銀行支店移轉披露十一日經用品庫（谷口）十二日には住吉屋本店で之種宴會の豪華版たる肇劒合同同十三日同じく本店で宮城縣人會、十二日の製作所から引續き十三日、二十日と何れも谷口で高坂町田等磐炭關係の各組、磐炭勞務の小瀧行計劃等、等可なり立て込んで昨今の模樣では例年に比べて決して劣るとは想はれず、以上團体的の催し以外、重いボーナス袋に一年間の勞苦を流す個人々々の低唱淺酌も少くないであらうから彼此運夜絃歌のさんざめきに之ノ方面に於ける暮れ景氣は大体上々と觀る事が出來る樣である

東北と北海道 振興陳情書に調印

あすの町村長會で

石城町村長支會總會は明十日平町會議事堂に開き既報の諸件を附議するがこの機に際し社團法人東國更生協會が目下關係各町村長の調印を纒めて居る『北海道東北地方當面の主要問題に關する陳情書』に對し同樣調印する、この陳情の要旨は左記諸項に分れて居る

地方財政調整交附金歳入缺陷町村に對する特別稅の設定、土地賃貸價格の改訂調査、家屋稅の國稅移管、國有林收入の經濟更生負擔整理、農村工業の擴充、東北讀本設定、東北廳の設置

日荷路夫　十日勿來　十一日植田　十二日泉　十三日上遠野　十四日入遠野

軍事思想普及映畫

錦村では來る十四日夜軍事思想普及映畫會を開く、フキルム左の如し

日本人こゝに在り、皇軍の面目、水泳選手新生の

應募者殺到か？ 鐵道傭人採用試驗

明年一月十四日執行

水戶運事の來年度傭人新規採用試驗は

專門學校以上一月二十四日、中等學校以下二月十四日

の二回に亙つて行ふ事に決定した、締切りは一月十日

水運並に水保苑の事

應募資格は中等學校卒業者が昭和十年以降十一年迄のもの、高小卒業以下は二十一才迄のもので除隊者は十年以降のもの、試驗科目は數學、國語、地理、常識

◇

從來は身体檢査をした上學科試驗を行つてゐたのを今回は學科試驗後嚴重な身体檢査をするので第一回受驗者は相當多數に上るらしく從つて平の前回受驗者は六百五十名內外であつたのが千三百名位は殺到するだらう

簡保巡回健康相談

仙遞局十二月中における簡易保險加入者のための巡回健康相談は左の日程によつて行はれる

△石城郡（山[illegible]醫師班）九

町村道の—徹底的改修だ

明年度工事に關し 小林監督所長の抱負

小林平土木監督所長は明年度に於て町村道の徹底的改修を目論み目下縣當局にこれが實施交渉を進めて居る先づ同所管下で早急改修に迫られて居る重要町村道は六ヶ線に上つて居りこのうち大野村玉山鑛泉附近千五百米並に綴—髙野線內鄕村地內は大体工費三千圓、泉村當手—黑須野間約千米は現在通學兒童が畔道を通行して居る程でこれには大体二千圓を要すと云ひ同所長もこの三線は是非改修實現を望んで居るやうである

中川橋架替

平—小野新町線川前村に架せる中川橋は前後百米の兩端が鐵道踏切りなので平土木監督所では工費一[illegible]六[illegible]圓で架替り『踏切禍』を除去する事となり鐵道當局に交渉した結果負擔折半に決定したので近く着工する

勇敢な六君

人命救助で表彰

郡內左記諸氏は何れも人命救助の廉により此程伊藤知事から表彰金を贈られた上遠野村馬上三郎（二四）同齋藤春夫（二二）植田町鈴木賢一（二二）勿來町渡邊健三（三）同下遠野多喜藏（三二）である

古文獻に聽く

德川幕府以前から今日の植田町になる迄

往時如夢

下

其の當時の戶長左の如し

記　藤井利一

町村實施以後

明治二十二年四月町村制實施せられ植田、後田、仁井田、髙倉、江畑、添野、石塚、東田、佐糠、岩間、小濱の十一ヶ村合併して鮫川村と改稱し舊村は大字名となり自治制を布せしが明治卅年常磐線開通と共に交通の便開け物資の集散、商工業の隆盛等面目一新し、累年人口の增加甚しく、大正十二年四月町制を施行し、從來の鮫川村を植田町と改稱す

一、鮫川村歷代村長左の如し

一、赤津赤喜知　大平幸藏　鈴木戶吉　豊田作太郞　松井秀倫　鷲淸吉　赤津赤太郞　古川德三郞

〇植田町歷代町長

佐川龜太郞　中根善作　馬上誠一　（町長代理助役）小野忠衛　佐川龜太郞　鷲淸升　古川傳一

明治廿二年鮫川村と改稱した當時の人口は三千を算せず甚だ微々たるものであつたが、その後逐年增加を來し、大正十二年植田町として町制を施行したる頃は一躍六千人と云ふ數字を見ることが出來、昨昭和十年の統計に依れば七千餘と云ふ之れ亦實に驚異的と云はざるを得ない、如何に植田町の現在躍進途上にあるや實に目覺ましき次第である

宛然村人の『自慢競べ』

書畫骨董や農產物　平窪の鄕土展賑ふ

平窪村の鄕土展覽會は愈よ昨八日から小學校で開いて居るが各家庭秘藏の書畫骨董を初め農產物、藁、竹細工、裁縫手藝品、小學生徒の各種成績品等各室一ぱいに出陳されて、宛然『村人の自慢競べ』の觀を呈して居る

農產物は昨八日午前十時から郡農會靑山技師等によつて等級を決め其他の出品物は小學校の先生が審査に當る、最終日の明十日午後一時から整理卽賣をするのでこれ亦村人達で賑ふ事であらう

滯納約六萬圓

—縣稅出張所整理に大童

縣稅務平出張所では既報の如く歲末に當り目下總動員で滯納整理に大童となつてゐるが管內四十八ヶ町村の總滯納は約六萬圓に上り中三分の一は平町が占めて居り同出張所では去る四日以來同町の整理に當つてゐる尙は左の日割で滯納町村の公賣處分を執行する

△十日泉村、川部村△十一日赤井村△十二日川前村△十三日髙久村△十四日磐崎村△十六日江名町△十七日上下小川組合村湯本町△十八日入遠野村△二十日神谷、草野、渡邊村△二十一日內鄕村△二十三日好間、大浦村、小名濱町

これ等各町村に對しては時節柄先づ最大限の溫情的督促をなし、更に納付の誠意なき場合はどし〲財產差押へを斷行すると

○。○。○。○。

草野青年總會

草野青年團總會を十四日午前九時から小學校に開く、郡農會技師講演

停車短縮—緊張整正

歲末の繁忙に備へ

歲末繁忙期に備へた平驛の週間二つ——

◇

貨車停留時間短縮週間は去る六日から實施して居る、これによつて同驛では夜間も荷卸し等を行つて居るので從來十五時間を要したものが十一時間には仕上げてゐる、これによつて各驛で

◇平驛の週間二つ

二時間短縮したとして全國で約七百輛の貨車がそれ丈け多く動かせると云ふ

◇

緊張整正週間を十一日から實施する、これは客貨の圓滑安全、旅客、荷主の福祉をモットーとした催しである

蛭田川鐵橋改修

郡南を流れる蛭田川は改修の結果現在の幅員二十米が四十五米に廣まるので勢ひ錦村中田地內の鐵道ガードも改修を要するので縣土木課金澤技師は今九日來郡、種々打合せをなし近く鐵道當局に交渉する事となつた

榮光、戰友、拓け滿蒙、日本の使命

平驛 雄辯大會

入賞者きまる

平驛の第二回雄辯大會は昨八日午後五時半からクラブで開き出演者十五名、入賞左の如し

1愛と戰と檢車區横山久芳　2我等職員は如何にして進路を定むべきか機關區加藤顯孝　3鐵道精神の提唱檢車區金賀敏彥　青年の急務機關區髙輪利雄

尙山崎驛長の『機智と機略について』味香機關區長の『眞の雄辯』について模範演說あつた

同大友倉次（二二）

紹介所大童

歲末迫つて　去月中の膨脹數字

平職業紹介所去月中の成績

	男	女	計
求人	五七八	三五	六一三
求職	二二一	二一	二四二
就職	六一	一五	七五

で前月に比し炭礦勞働者並に芝浦製作所見習工の斡旋等によつて求人四百四十九名、求職八十五名の何れも增加、更に前年同期に較べても求人四百八十五名、求職百十九名の增加、歲末の迫るにつれて求人、職も激增して同所はいまこれらの消化に四家所長以下汗だく

鐵道分旗

平驛で表敬式—

平驛では今回全國鐵道事務所に制定された鐵道旗の分旗に對する表敬式を昨八日午前十一時半から同驛車區內に擧行した、列席二百名

この鐵道旗は從業員の質實剛健、赤心奉公の精神を表したもの

チフス大体終熄か

炭礦當局愁眉を開く

一時その數二百名を突破した炭礦地帶のチフスは當局の周到なる豫防策によつて其後一名の發生も見ず最近續々全治者が出るので平署でも愈よ終熄を見たものと愁眉を開いて居る

小名に飛火

廿六名に上る

他方面の終熄に反して小名濱町では最近續々發生し昨八日現在では實に二十六名を數ふに至つたと云ふ、交通關係による傳染らしく町當局では極力豫防に當つて居る

吳服屋荒し

求刑通り懲役三年

昨報—相馬郡石神村生れ前科三犯馬場傘太郎（二五）が內郷村綴の吳服屋を荒した事件は今九日平區中島判事係りの公判に於て求刑通り懲役三年を言渡された

車庫荒し出沒

平署で指名手配

郡下の各自動車ガレーヂから附屬品を竊取してゐる犯人あり自動車經營者を極度に恐怖せしめその被害額も相當に逐してゐるので平署では神谷村農機次郎三男、自稱自動車運轉手佐藤畑雄（二三）の仕業とにらみ七日縣下各警察署に取押へ方を指命手配した

天氣豫報（小名濱測候所觀測）

今晚は北の風晴

明日は北東の風晴後曇

間接正犯に八ヶ月

子に盜ませた男へ判決

昨報—子に盜みを强いた平町六丁目一〇一前科三犯相馬中村町生れ司馬拾重郎（五三）は今九日平區裁西判事係りの公判で求刑通り懲役八月を言渡された

平青年校教務視察

平青年學校に來る十二日青年學校視學委員近藤節太郎氏（福島髙商校長）來校、左の如く視察するので今九日郡下各校に來觀の通牒を發した

午後六時—書類受閱狀況報告　同七時—實地授業視察　同八時—視察委員講評並懇談

。。。。。列車時間改正

常磐線は明後十一日から時間改正されるが平驛附近は殆と從來に比し大差ない

癖の悪い寫眞屋小僧

仕事に行つて盜む

神谷村上神谷大久勝吉（二〇）假名—は平町研町某寫眞館の店員に雇はれ中去月二十三日好間村古河炭礦へ撮影に行つた際同礦坑夫長田某のオーバー一着（價格二十圓）を竊取して平署に檢擧され餘罪十件自白

三丁目のボヤ騷ぎ

昨日午後二時頃平町三丁目福島モーター商會中出張所作業場から出火直に消し止めたが、同所に於ける火氣使用に就て附近の反對あり其筋に右の緩和方を陳情すべく考慮中であると

お披露目

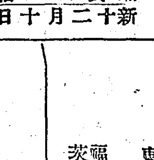
三島屋から

云ふ事を『菊勇』と云ふのが出現

十日（小名濱測候所發表）

日出 六、三五　月出前 三、〇三
日沒 四、二四　月沒後 一、四〇
滿潮前 二、二五　干潮前 七、〇五
滿潮後 〇、三〇　干潮後 八、二五

舊十月二十七日　木曜　丙寅　赤口　滿　角宿　新十二月十日



諸判定應需　東京市本鄕區湯島四丁目　高島易斷總本部　神誠館

▲一白 巡り來れる幸運を逸せざる樣努力あるべし▲二黑 さて[illegible]生じ易き日故成るべく內を守るべし▲三碧 迷うんがん前に横たはりて行く手の定まらざる如し▲四綠 氣心に落付きを生じ來る日急がば廻るべし▲五黃 行違ひの起り易き日何事も手控するが安全▲六白 共の位置に安んじ常事を怠らぬ樣勵むべし▲七赤 小を得て大を失ひ易し進むより守るが無事▲八白 知つた振して不慣の事を持込れ難儀する日▲九紫 張合ひよく事業の進み行く日但し飲食注意

廣告

おでん　一平　電話二六三番　出前迅速

小使雇ひ入れたし
年齡二十一才ヨリ四十才迄
確實ナル保證人二名ヲ要ス、本人來談
平町三丁目
株式會社 福島貯蓄銀行平支店

◎難病の御方に御知らせ！
○胃潰瘍　○胃痙攣　○心臟疾患　○腺病質　○虛弱體質　○動脈硬化　○小兒五疳
右の病氣で御困りの御方は至急御來店下さい。數百年の輝く不滅の歷史と醫藥界諸博士の研究證明による皇漢醫家の至寶プフオタリン及び動物ホルモンを主劑とせる一粒强心劑實驗上効果種々なる難病は勿論不治と諦められた難病まで良くなつた卓効をもち快復の喜を得た實例が澤山あります
宣傳週間　十二月九日より十五日迄……七日間
此の新聞御持參の方に皇漢秘藥イナリ丸見本進呈いたします。
平町古鍛冶町十番地　阿康藥局
元東京帝國大學病院藥局囑託　明治藥學士　藥劑師　阿部康雄　電話四四番
代理店　好間村稻荷下　阿康藥局支店
定價（約十日分壹圓、約一ヶ月分貳圓五十錢　約六十一日分五圓、約百卅三日分拾圓）

しもやけ家傳藥
是マデしもやけハ暖カクナラネバ治ラヌモノト諦ラメテ居ツタノガ一日二三回二三日ノ御使用デぐすれたしもやけモ忘レタ樣ニ完全ニ治リマス。現今ノ塗藥トハ異リ罨法ニヨリ根本カラ除去スルモノデアリマス。しもやけハ寒サノ爲ニ皮下毛細血管ガ障害ヲ起ス爲ニナルノデ塗藥等デハ決シテ治ルモノデハアリマセン、又くづれたしもやけニ塗藥デハ塗布ト同時ニ痛ミヲ感ジタリかゆみヲ增シタリ致シマスガ此藥ハ無刺戟ノ中ニ心地良イ罨法ニヨリ皮下ノ血行ヲ良クシ幼キ御子樣方ニモ喜バレ如何ニくずれたしもやけデモ完全ニ全治致ス事保證致シマス是非一度御試シ下サイ。
東京丸井邦寶堂
福島茨城兩縣特約　平町一丁目　伊藤石炭店

內外　建築材　建具材
入阿部材木店
磐城國平町（公園下）
阿部好利 改メ（登）
電話四九四番